INNOVATION LAB ASIA
#NordicMade

CONNECTING JAPAN & THE NORDICS

ニュースレター#10
2020年12月21日

北欧イノベーションエコシステムニュース

「2020年を振り返って―明るい2021年への抱負」

イノベーション・ラボ・アジアは、北欧の代表的な業界を日本に紹介していく新・報告書シリーズの配信を今週スタートさせます。第１号でフィーチャーするのは「北欧ヘルステック」。日本進出を狙うスタートアップ15社について英語版/日本語版でお届けします。

北欧ヘルステックソリューションは、感染拡大が続く新型コロナ問題にだけではなく、もっと深いレベルで関連性の高い技術です。なぜなら北欧と日本は人口の高齢化と労働力の減少という点で同じ社会的課題を抱え、ヘルスケア技術のイノベティブなソリューションの必要性が叫ばれているからです。このレポートが両地域の新しいコラボレーションにつながるきっかけになれば幸いです。

このレポートは、私たちイノベーション・ラボ・アジアチームが今年2月に日本を訪問した際に得た気づきのごく自然な延長線上にあります。日本の北欧への関心は本物だと体感した私たちは、この情報を日本語でーそして日本への観点でー発信することの必要性を強く感じたのです。

これが最初の日本語報告書「北欧イノベーションガイド ―欧州のユニコーン企業立国」作成に至った動機でした。もちろんこのニュースレター自体も然りです。併せて先週からスタートしたウェブサイト日本語ページ立ち上げの原動力でもありました。当サイトでは、日本のVC/CVCから北欧企業への投資活動について2013年から現在までを初めて分かりやすくまとめた概要紹介など、北欧テックエコシステムの最新ニュースを待ち望む日本のステークホルダーの方々への情報の宝庫となることを目指しています。

でもこれらは単なる始まりにすぎません！2021年1月には北欧ヘルステックレポートはスタートアップ5社を追加し（英語版レポートの影響で北欧エコシステムも日本を意識し始めています）、日本向け特製ビデオピッチ（全て日本語字幕付き）も加えて最新版をお届けの予定です。

これに加え、1月22日森ビルでTrusted Corporationとジョイントのヘルステックイベントを開催します。そして3月には私たちも来日して友人やパートナーの皆さんと直接言葉を交わしたり、報告書をお渡ししたいと思っています。

来年早々には、少なくともフィンテックとアーバンテックの二セクターに関するレポート及び日本語字幕付きビデオピッチ作成などを計画しており、引き続き日本に向けた情報を発信していきます。

その他にも日本で活動中の北欧テックスタートアップを全てマッピングし、そのうちの6社に日本進出の経緯などを語ってもらうという、日本の「ロールモデル」レポートにも着手する予定です。レポートが刺激となって先輩スタートアップと同じ道を歩む後続企業が生まれることを期待しています。こんな情報が欲しいなど、ぜひアイデアやご要望もぜひお寄せください。

将来的なことを視野に入れ、来年は日本のステークホルダー向けに北欧ツアーを決行したいと考えています。5月27日のエストニアLatitude 59を皮切りに、ヘルシンキ、南スウェーデン、そして最後は6月4日デンマークのコペンハーゲンフィンテックウィークで締めくくるという内容です。報告書でご紹介している北欧スタートアップ企業だけでなく、北欧の投資家や各主要ステークホルダーとの顔合わせの機会になればと思っています。

2020年は新しいパートナーシップに恵まれた年でした。Trusted Ventures、Startup Bootcamp Osaka、そしてNordic Innovation House in Tokyoとは互いに協力しあいながら、イベント開催、情報発信など毎日やりとりをしています。私たちはこれまでどおり中立な立場のNPO/NGOとして、北欧と日本を繋ごうとする人々全てのための場所であり続けます。

最後になりましたが、イノベーション・ラボ・アジアより皆様にクリスマスと年末年始のご挨拶を申し上げます。まだ不安な毎日が続きますが、皆様とご家族の方々のご健康とご多幸をお祈りいたします。このパンデミックで何か良いことが起こったとすれば、それは誰もが同じ問題に直面し、それを共に解決する必要性についてはっきりと認識できたことでしょう。2021年はこのチャレンジに立ち向かい、ぜひ実現させましょう！

北欧ニュースダイジェスト

EE	Skeleton Technologies、EIT InnoEnergy、FirstFloor Capital、MM Group and Harju Elekterら欧州のトップ産業インベスターによるシリーズDの投資で約54億3200万円を確保。
DK/ SE	欧州イノベーション工科大学院(EIT)は権威あるEIT Awards 2020の受賞者を発表し、北欧からはBluSense Diagnostics (デンマーク)、Stockholm Water Technology (スウェーデン)が選ばれた。
DK	ヘルスケア領域で非接触型患者モニタリングを開発したTeton.ai、最新の資金調達ラウンドで約1億3900万円を獲得。
DK	スマート廃棄物処理ソリューション開発のWasteHero、Squareとシリコンバレー VC、Anorak とMomentaの2社からの資金調達額が約1億2600万円到達。
SE	地元産の植物由来食品を自動販売機で販売するVeat Foods、Pale Blue Dotその他から約6200万円確保。
SE	より安全なIoTのためのセキュリティソリューション開発のXertifiedは、Karolina Ventures、Almi、エンジェル投資家から約1億2250万円を確保。
FI	Rundit、エンジェル投資家Pierre Weimerskirch や LPEA Luxembourg Private Equity Association らが率いたシードファンディングの1億2600万円を含む約2億2000万円 を調達。
NO	AIがサポートする都市開発向けソフトフェアのSpacemaker、米国Autodeskに約255億2000万円で買収される。

「VENTURE CAFÉ TOKYO」インタビュー

Venture Café Tokyoについて、また日本のイノベーションエコシステムとの関係について教えて下さい。 Venture Café Tokyoは2018年3月にオープンしました。東京にできたイノベーションコミュニティビルダーで、このような場所としてはアジア初です。「イノベーターを繋げて実現させる」という私たちのミッションを貫くために、Thursday Gathering と題したシグネチャーイベントを開催しています。

名前：	漆原 琢雄（Takuo Urushihara）
役職：	オペレーションディレクター
社名：	Venture Café Tokyo
エコシステムの所在地：	東京
連絡先：	tak@venturecafetokyo.org

新型コロナによる影響や2021年の見通しは？
エコシステムの中でも私たちはいち早く行動を起こしました。まずはすぐに Thursday Gathering を Zoom や Remo などオンラインプラットフォームを使ったデジタル開催に変更しました。2020年10月からは活動の一部をCIC Tokyoに移し、対面・デジタル開催両方のハイブリッドスタイルで行っています。コロナ真っ只中でしたが名古屋とつくばにも活動範囲を広げることができました。2021年にコミュニティーがどのように成長していくのか楽しみです。

コミュニティー内の北欧の組織・政府系機関・人々で、日本での成功を生かしているような好例がありますか？2019年9月にフィンランドのスタートアップを招いてトークやネットワーキングを行いました。またフィンランド、ノルウェー、アイスランド、スウェーデンの北欧諸国の大使館はいつも協力してくれています。Thursday Gatheringの参加者にとって一番エキサイティングなのは、ネットワークが北欧や世界中に広がることでしょうね。

北欧イノベーションコミュニティ支援のために今後Venture Café Tokyoが取り組もうとしている、またはすでに取り組んできたことは？2021年にはThursday Gatheringがより面白くなるような新しいテーマで復活させたいですね。 Nordic Innovation Houseや北欧各国の大使館とは互いに協力してVenture Café Tokyo で何か新しい取り組みをしようと話し合っています。東京オリンピックも近いことですし、ぜひそれを活用してネットワーク内のスタートアップの注目度をあげていきたいです。

北欧のテック系企業が日本進出を目指す際の一番の壁は？日本市場に参入する企業の前に立ちはだかる文化的、言葉の壁です。ですからお互いがわかりあえることがとても重要です。日本は他のアジア諸国とは異なり比較的信頼を獲得しやすい国と言えます。とはいえ日本のステークホルダーの多くは部外者に対して警戒心が強いので関係構築にはじっくり時間をかけるべきです。相手に話を聞いてもらうためには段階を踏みながらの準備が必要かもしれません。

どのようなタイプの北欧ステークホルダーにアプローチしたいですか？私たちはオープンでフラット、誰もが参加できるインクルーシブなコミュニティーです。内側から大きな変化を望んでいるイノベーターや起業家を支援していきたいですね。つまりスタートアップ、起業家、若きプロフェッショナルの人々です。日本や世界にポジティブなインパクトを与えたい全ての人々のために私たちは存在していますから。

お知らせ

アクセラレーター	Hitachi Innovation Challenge for Circular Economy 持続可能な水資源、ゼロ・ウェイスト社会の構築や東南アジアの食品廃棄物に焦点を当て、コラボによって日本への市場拡大を狙うスタートアップ対象。2021年1月8日締切。

編集者

ピーター・ヨハンセン
プロジェクトマネジャー
pj@asia-house.dk

ユリアン・森江・原・ニルセン
日本担当コンサルタント
jni@techbbq.org

INNOVATION LAB ASIA

「イノベーション・ラボ・アジア」はデンマーク産業財団の支援の下でAsia Houseと TechBBQが共同で運営するプロジェクトです。詳しい内容については以下からご覧ください。

報告書（日本関連）

INNOVATION LAB ASIA
A GUIDE TO
NORDIC INNOVATION
EUROPE'S UNICORN FACTORY
INDUSTRIENS FOND
ASIA HOUSE
TECHBBQ

INNOVATION LAB ASIA
北欧イノベーションガイド
INDUSTRIENS FOND
ASIA HOUSE
TECHBBQ

INNOVATION LAB ASIA
JAPANESE INVESTMENTS
EXPANDING TO THE NORDICS
INDUSTRIENS FOND
CAPACITY
ASIA HOUSE
NordicNinja
TECHBBQ

全ての報告書を見る

Asia House | Indiakaj 16, Copenhagen | www.innovationlabasia.dk | hello@innovationlabasia.dk